

鳥取市政懇話会（第6回） 「鳥取市版アジアゲートウェイ構想」部会議事概要

日 時：平成22年12月7日（火）午後2時～2時30分

場 所：鳥取市役所本庁舎4階 第4会議室

出席者

【委員】兼田 肇委員、川上一郎委員、田中仁成委員、谷口博文委員、山崎祥次委員、
山本大順委員

【鳥取市】大田経済戦略課長

【事務局】平田

【オブザーバー】ジェトロ成田所長

●副部会長あいさつ

- ・ 今回が最後ということで、アジアゲートウェイ構想部会のこれまでの提案をまとめつつ最後の意見を伺い、修正しながら全体会で発表したい。

意見交換

●副部会長

- ・ これまでのおさらいも兼ねつつまとめていきたい。本部会の基本的な趣旨としては、基本的には DBS クルーズによりロシアを含め、韓国・中国等のアジアの経済成長の中で、本市の関りを持っていくことで、本市の新たな発展に寄与するものとするものであるように思う。
- ・ また、関西広域連合が発足し、本市は中継地点のとしての役割を果たしていく考えであり、これについても協議したとのこと。
- ・ まとめとして、本部会は交流・物流が主軸であり、交流に関しては実態把握、受け入れ態勢、鳥取城跡を含めた観光情報の作成など。
- ・ 提言書(案)にはロシア人のための、とあるが、韓国・中国も前提であるとは思いますが、発表の際には口頭で付け加えて欲しい。
- ・ ソウル便については外国観光客が関西に行くケースが多いと聞くが、観光情報の発信により鳥取市に誘引したい。
- ・ 韓国ドラマロケ地であることもアピールし、観光に活かしていきたいということも付け加えて欲しい。

●委員

- ・ 提言書の中の鳥取城跡の活用という固有名詞が唐突に出てきたように見受けられる。

○事務局

- ・ これは過去の発言であった例からの引用。しかし限定的な引用であったかもしれない。表現を一般的にしたい。

○大田経済戦略課長

- ・ 鳥取城は文化財関係や、HOT 連携等でテーマにもなっており、現在韓国でもアピールしているところ。例文としては適当。

●副部長

- ・ 鳥取城は例として挙げ、観光資源と修正する。
- ・ 最後の境港周辺の周遊きっぷというのは、鳥取市の戦略として適当か。境港という名称は知らない。

●委員

- ・ 周遊きっぷについては外国人版を作成してみてはどうか。

●副部長

- ・ 修正意見あった部分は、これでいきたい。
- ・ 物流の話に進むが、ロシアへの農産物の輸出検討、と表記あるが、中国等も入れていく。

●委員

- ・ 気になっていたが、ロシアという表現は範囲が大きすぎないか。ロシアを対象とすることの突端はウラジオストクであったと思う。

●成田所長

- ・ 確かに。表現としては極東ロシアなどというほうが適当かもしれない。

●副部長

- ・ 「日本の農産物の評価・分析」とは、日本でどんなものがつくれるか、ということか。

○事務局

- ・ これは相手側で何が売れているかなど、マーケティングの意味で書かせていただいている。

●委員

- ・ 具体的にそのマーケティングはどこが担っていくのか。

●委員

- ・ 具体化のステップに進むには、相応の体制を作って臨まないと無理なのではないか。それは他としてお任せするか、それとも今後検討していくのかも含め考えたほうがいいのではないか。
- ・ それは次頁の「今後の展開・可能性」というところではないだろうか。今回本部会としては方向性ということで提言するのが適当だと思う。

○事務局

- ・ 具体的な展開については、「今後の展開・可能性」の中で触れている。まずは方向性を固め、総括する中で具体的な展開に触れていきたいということ。

●委員

- ・ どうにも内容の骨格があやふやに感じる。意欲的な購買層、マーケットはあるはずなのでもう一步具体的に踏み込んだほうが良いように感じる。
- ・ 現段階では独自性を欠いていると感じる。鳥取の長所を伸ばすようなことを常に意識して考えていくべき。
- ・ 全体会の中では今後の展開を強調していただきたい。

●副部長

- ・ 日本の農作物、という表現も鳥取市の特産品をメインとした、鳥取市の農作物、という表現にしたい。

●委員

- ・ まず基礎として、本部会の議論の根底には、鳥取市としてという意識がなければならないと思う。
- ・ 加えて、その上での取組みを考える上で想定する窓口が、行政と市民との間でズレがあるような気がする。これは今皆さんのなかで触れてみたほうが良いのではないか。
- ・ また、交通整備に伴い関西と近くなったというが私はそうは思わない。こうした議論をする上では、関西とダイレクトに繋げるというような極端な主張があってもいいと思う。

●副部長

- ・ それでも以前と比べると早くなったと感じている。
- ・ おっしゃられたよう、鳥取市としてということ为基础に報告を心がけたいと思う。

- ・ PR チラシの作成という話に移るが、最近では携帯端末を使った情報発信もあるので、そういった様々なメディア展開というスタンスも付け加えようと思う。いずれの内容にも、鳥取市らしさをどこかで発揮していきたい。
- ・ (3)、(4)は具体的な内容になっていると思うが「規格品以外の販売検討」とは農作物のことか。

○事務局

- ・ その通り。そういった安価なものに需要が集まっているから戦略的に進めたらという発言だった。

●副部長

- ・ 2つ目の「輸出の際の受け入れる手立ての確保」とは何か。

○事務局

- ・ こちらから輸出の希望があっても、相手国、特にロシアでは受入の態勢もしっかりしないといけないという意味。

●委員

- ・ 現実に相手側に製造工程を配置するなどが現在の主流であり、商品の売り込みから先のフォローもしっかり行うべき。その際、国もデータをだしていたりするし、施策もあるならどんどん利用していくべき。

●大田経済戦略課長

- ・ 現時点ではロシア等の受け皿がまだ非常に弱い。

●成田所長

- ・ この表現は、例えば消費者輸出の販路の開拓といった表現がいいとおもう。

●副部長

- ・ これについても、市だけでは厳しいように思う。県や経済団体との協力・連携も不可欠。
- ・ 本部会のまとめとして、修正のあった部分は口頭で補足する。あとは事務局に適宜修正していただくということにしよう。